

南アフリカの見どころ



South Africa

Inspiring new ways



旅の基本情報

⌚時 差

南アフリカは日本より7時間遅れ。サマータイムはなし。

🎫旅券（パスポート）・査証（ビザ）

旅行中および最終訪問予定日から30日間有効な期間を有する日本国旅券（パスポート）を所持しており、観光または短期業務が目的で90日以内の滞在であれば、査証（ビザ）の取得は必要ない。ただし、往路または第三国への航空券を所持していることが条件。なお、パスポートは最低1ページの余白が必要。もしこの条件を満たさない場合は入国できないので注意。南アフリカを訪れる多くの旅行者にとって入国手続きはとてもスムーズで、アメリカやヨーロッパの主要国の観光客においてもビザ不要となる。日本を含めたビザ不要の国から入国する場合、自動的に入国許可証が無料で発行される。通常は最大90日間滞在可能だが、滞在日数の延長を希望する場合はビザ申請が必要。ビザ取得が必要な国民の滞在期間は最大30日間。ビザに関する詳細は下記へ問い合わせること。

南アフリカ共和国大使館

www.sajapan.org（英語のみ）

TEL:03-3265-3366

査証申請受付時間：9時～12時30分

🛂入国手続き

南アフリカ入国には入国カードが必要となる。（飛行機内で配られる）このカードの所定欄に必要事項を記入し、空港到着後の入国審査でパスポートとともに提出する。入国審査場では「Other Passport」（その他のパスポート）と記されているカウンターに並ぶ事。

📄税関申告書

南アフリカ入国時には税関申告書の提出が求められる。税関手続きは、スーツケース等を受け取った後に、「申告なし＝緑」「申告あり＝赤」のカウンターへ向かう。すでに使用している個人の所有物については無税。その他の規定については記入例を参照。

💵通貨

標準通貨単位はランド(Rand)で、R1= 100セント。ほとんどの国際空港には24時間営業の両替所があり、日本円からランドへの両替が可能。また市内の主要銀行や主なホテルでも両替が可能(銀行の営業時間は平日9時～15時

30分)。入国時の外貨持ち込み制限はない。ただし出国時にランドを再度日本円やその他外貨に両替する際には、外貨からランドに両替した際のレシートが必要となる。

🛍️クレジットカード

アメリカンエクスプレス、ダイナースクラブ、マスターカード、ビザなど主要クレジットカードは広く通用している。

🍷チップ

空港・ホテルでは、ボーターに荷物1つにつき5ランド程度、枕銭も3～5ランドが適当。ほとんどのレストランではレシートにサービス料を加算していないので、代金の10%をチップとして置くのが慣例。駐車場やガソリンスタンドでもチップは必要。わずかな額でも、担当したスタッフに渡すと喜ばれる。

🛍️物品税 (V.A.T.) の還付

南アフリカでは、すべての商品に一律14%の物品税 (Value Added Tax) が加算される。外国人旅行者は一つの品物でR250を超える買い物をした場合、出国時にそのレシートと購入した物品を提示すると払い戻しを受けられる。還付請求は通常、出国する国際空港で行う。請求手続きをする際には、請求窓口は出国後にあり、時間帯によってかなり混雑する場合もあるので、手続きをする際には時間に余裕を持っておくことよい。

手 順

1. チェックインカウンター近くのVAT還付デスクにてレシートにスタンプをもらう。
※買い物をしたレシートと購入した物品が必要。
2. 出国後にある、VATカウンターでスタンプの押したレシートを提出する。
3. 書類を作成してもらう。
4. その書類を持って隣にある銀行にて現金に換える。
※日本円への換金は難しいため、ランドかドルへの換金が望ましい。

🦽身体の不自由な人のための施設について

南アフリカ政府は障害をもつ旅行者に対応する宿泊施設などの環境整備に積極的に取り組んでいる。バリアフリーや障害者向けのバスルームを設置する宿泊施設が増えている。ほぼすべての国立公園内のロッジは障害者向けの客室が最低1棟、ホテルの場合でも1～2部屋用意されている。スポーツが催されるスタジアムもほと

んどが駐車場のすぐそばに車イス専用の観戦スペースおよびトイレを完備している。公共施設の大半は、車イスが出入りし易いよう配慮された設備が整っている。

👕服装

日本とは季節が逆になる。5～ 8月は冬の時期にあたるため朝晩は冷え込む。特に、サファリ等では暖かいウィンドブレーカーやフリースなどの暖かい服装の準備が必要。日中は暑くなることもあるので重ね着できる服装が適している。南アフリカは平均日照時間が1日あたり8.5時間と長く、年間を通じて日差しが強いため、日焼け対策が必要。帽子、サングラス、日焼け止め、虫除けなどを持参するとよい。ケープタウンは風の強い日が多く、天気が変わりやすい為、夏の時期でもカーディガン等の上着があると便利。

🌤️気 候

南アフリカの気候は基本的には温暖。乾季（4～ 10月）と雨季（11月～ 3月）に分かれる。**ただし**、ケープタウンだけが地中海性気候のため、乾季と雨季が反対になるので注意。「一日の中に四季がある」と言われるほど、南アフリカの一日の気温差は大きい。朝晩は冷え込む（涼しくなる）ことが多い。湿度が少なくカラッとしているため、夏の暑い時期でも比較的過ごしやすい。

🌞日差しと熱中症

屋外にいるときはには帽子、サングラス、紫外線防止効果の高い日焼け止めなどを使用することをお勧めする。また、日中は日差しから肌を守るために薄手の長そでなどを着用するとよい。湿度が少なく日本ほど蒸し暑さを感じないが、気温は高くなっているので水分をこまめに摂って活動する。

🔌電気・電圧

南アフリカの電気・電圧は220ボルト・50ヘルツ。対応するプラグは3本の丸いピンのついた南アフリカ独特の物だが、2本のピンがついたBタイプ、Cタイプも使用できるようなアダプターが既に取り付けてあるので心配はない。必要であれば、南アフリカのアダプターはホテルのフロントで借りることも出来る。

🏠健康と安全

あまり知られていないが、南アフリカは非常に発達した社会インフラを完備しており、優れた浄水システムや世

界有数の高い医療水準を誇る。

🏥病院と医療ケア

南アフリカは発達した医学を誇る世界の医療のリーダー的存在であり、実際、南アフリカで医療技術を身につけた医師は世界のあらゆる国で活躍している。このことは、南アフリカでは高い水準の医療サービスが受けられることを意味する。南アフリカでは数多くの公立および私立病院が全国を網羅しており、優れた医療サービスを提供している。だが万が一、私立病院にかかった場合の医療費をカバーするため、海外旅行保険には加入しておくことを薦める。

🦟マラリア予防

マラリア蚊が生息する地域は南アフリカの北東部のほんの一部に過ぎず、基本的に南アフリカではマラリアフリーとなっている。特に、5～7月の冬の時期は感染する確率は低くなる。マラリアに感染するケースは非常に少ないが、上記の地域に旅行する場合は適切な予防策を講じていくことが必要となる。なお、これらの地域でも、冬の間は感染は危険が低い。南アフリカ政府はスワジランド、モザンビークとも協力して大規模なマラリア撲滅プログラムを行っており、感染者は減少している。覚えておきたいのは、マラリア原虫を持っている蚊に刺されない限り、マラリアには感染しないということだ。効果の高い虫除け剤と正しい知識があればマラリア蚊に刺される危険を限りなくゼロに近づけることができる。最も安価で安全で効果的な対策は、蚊よけネットや効果的な虫よけなどを活用することだ。マラリア予防薬を飲む方法もあるが、用法に従って服用することが必要。マラリ

ア感染のおそれがある地域に入る1～2週間前から服用を開始し、その場を離れてからも4週間その薬を飲み続ける必要がある。なおマラリア予防薬服用前には医師に相談し、妊娠している場合は服用しないこと。

🛡️安全と治安

観光客にとって、南アフリカは世界の他の観光地と同様に安全な場所であり、常識の範囲内で行動していれば何ら問題のない国である。人のいない場所で夜一人で歩かない、町を歩く時は高価なカメラや目立つジュエリーを身につけない、ジッパー等のついているバックを利用するなど、海外旅行における一般的な注意を守っていれば、ほとんどの地域に安心して訪れることができる。観光客の安全に関する基本情報はホテルや観光案内所で手に入れることができる。旅行者に多い被害は、置き引きやスリ。どちらも少しの気の緩みから起こりえる被害なので、貴重品の管理、バックなどから目を離さないようにするなど気をつけたい。

🍽️食事と飲料水

南アフリカの水道水は安心して飲むことができ、細菌感染などの心配は一切不要だが、旅行者はミネラルウォーターを利用の方が良い。ホテルやレストラン、ナイトクラブでの食品管理や衛生管理は徹底している。サラダや生のフルーツを食べてもまったく問題はなく、飲み物に氷を入れても安心だ。

🛣️道路事情

南アフリカの交通網は非常に発達しており、道路もよく整備されている。ただし、長時間の運転による疲れは事

故を引き起こしやすいので、移動距離を考え、大まかなスケジュールをあらかじめ組んでおくことは非常に重要。都市部から離れた自然の多いエリアでは道路にフェンスがなく、動物が道路上に出てくることがあるので、夜間は特に注意が必要となる。飲酒運転に関する法律は非常に厳しく、血中のアルコール濃度が0.05%を超えると運転できない。これは一般的に女性にとってはワインをグラス1杯、男性にとっては1杯半から2杯の量に相当する。数車線ある幅が広い道路での制限速度は時速120キロ、より狭い道路は時速100km、子供などの歩行者が多い街中では時速60～80キロと定められている。

🚗車の運転

南アフリカで外国人観光客が車を運転する場合、国際免許証が必要。国際免許証を持たずに運転した場合、罰金が科せられ、旅行を続けることができなくなる。レンタカーを借りる時も有効な国際免許証が必要。シートベルトの着用は法律で義務づけられている。

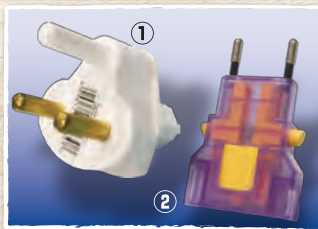
📄予防注射

コレラや天然痘をはじめとする予防注射は南アフリカ入国の際、一切必要ない。ただし、黄熱病の流行地域から南アフリカに入国する場合は、1歳未満の幼児を除き、有効な黄熱病予防注射を受けたことを示す国際証明書が必要となる。

🛍️ショッピング

主要なショッピングセンターやモールのほとんどは土日も休まず営業しているが、閉店時間が早まるので要注意。都会から離れた場所や小さな町では日曜休みの場合が多い。

南アフリカのプラグ



① 南アフリカのプラグの形はこれ。

② 持って行くのはマルチタイプの変換プラグがおすすめです。



南アフリカのホテルには、マルチタイプの変換プラグに対応できる変換プラグが各部屋に用意されていることが多いです。



マルチタイプの変換プラグは幅を簡単に調整できるものにしましょう。これは黄色いボタンを両方から押すタイプ。

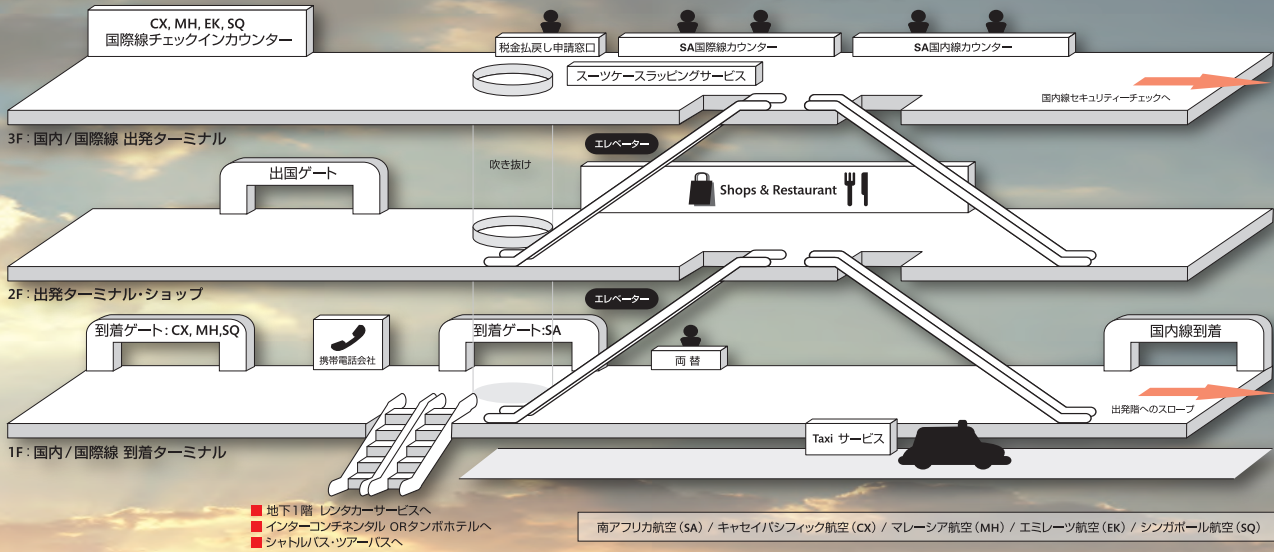


南アフリカ式のプラグに対応している変換プラグにマルチタイプの変換プラグを差し込み、最後に日本式のプラグを差し込みます。

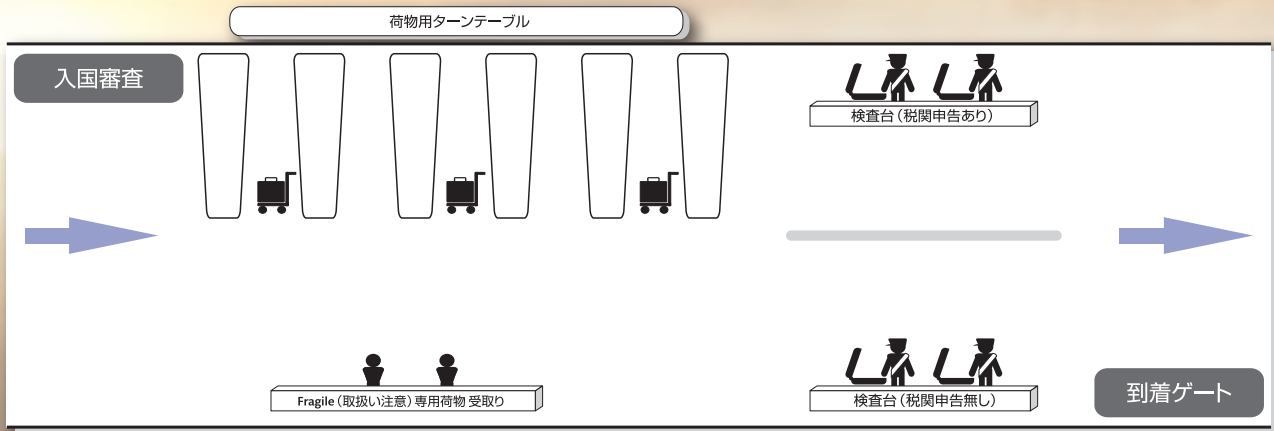
オリバータンボ国際空港 (ヨハネスブルグ) - フロアマップ

ターミナル

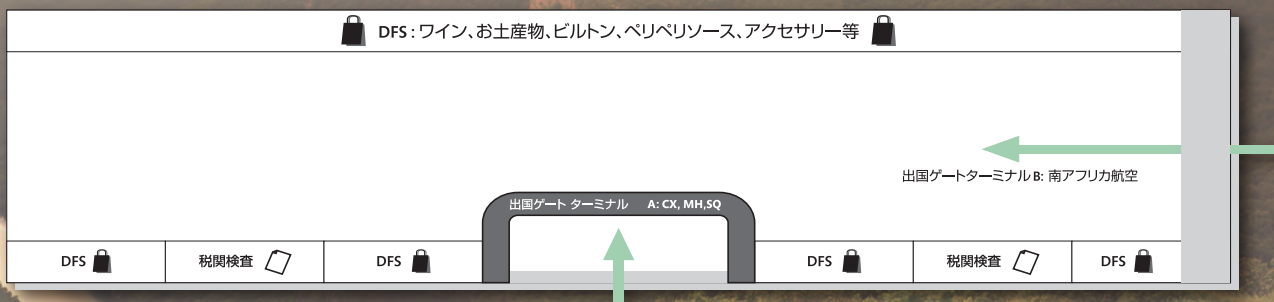
ターミナル A



入国審査・税関検査



2F: 出発: デューティーフリーショップ (DFS)



税金払戻しの方法

① 税金払戻し申請

※書類をもらったら隣の銀行へ

② 銀行

※ランドもしくは USドルでの両替がおすすめ
※日本円はない時もある

- スタンプの押してあるレシートを提出する
- パスポートが必要

南アフリカ観光局

〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-1-2 赤坂ライオンズビル2階 TEL: 03-3478-7601 FAX: 03-3478-7605
www.south-africa.jp